

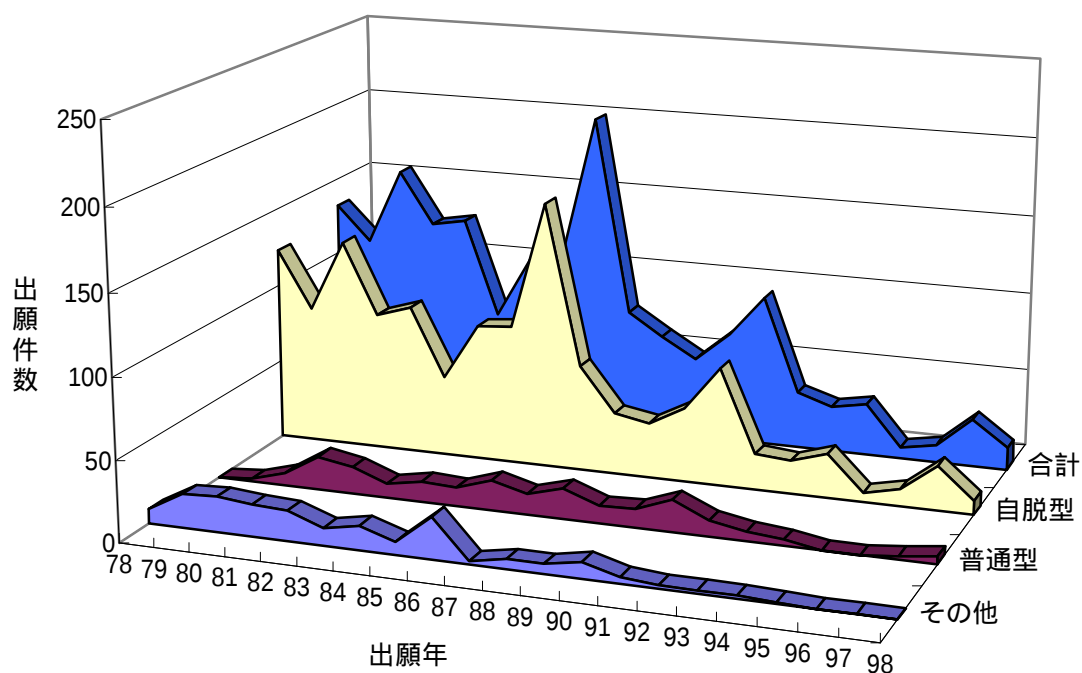
1.3.2 自走式コンバイン

自走式コンバインの主な機種としては自脱型コンバインと普通型コンバインがある。自脱型コンバインは、水稲用として日本で独自に開発され発展してきたコンバインである。一方、普通型は欧米の汎用コンバインに水稲用、あるいは麦や大豆用との兼用機として改良を加えてきたコンバインである。

図 1.3.2-1 に自走式コンバインの型式別出願件数推移を示す。自走式コンバインの中では自脱型コンバインの件数が普通型コンバインを圧倒している。いずれも出願件数は減少傾向にあるが、普通型コンバインの出願は自脱型ほど減少傾向が顕著ではなく、持続的である。

なお、最近の国内販売実績をみると自脱型コンバインが年間4～6万台であるのに対し、普通型コンバインは近年増加傾向にあるもののまだ年間3百～1千台にすぎない。

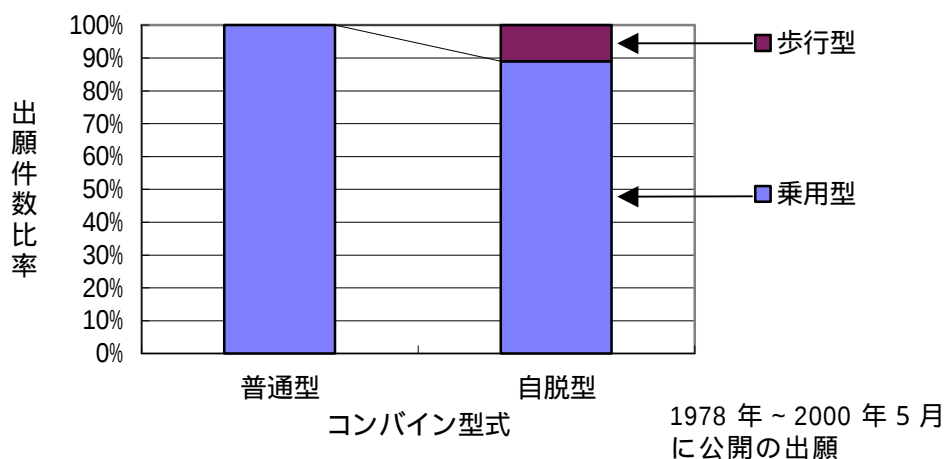
図 1.3.2-1 自走式コンバインの型式別出願件数推移



(1) 自走式コンバインの運転型式と走行型式

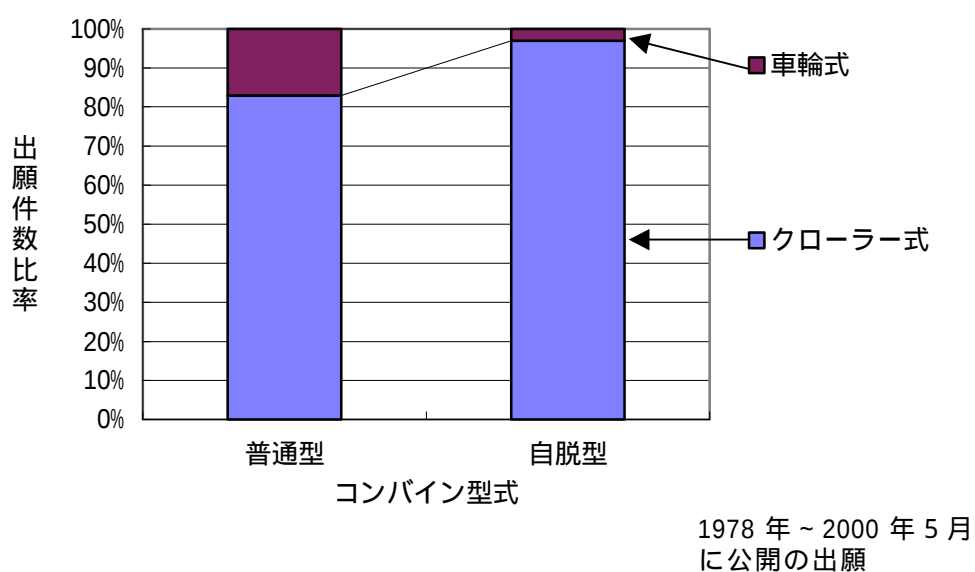
自走式コンバインの運転型式は歩行型と乗用型に分けられる。図 1.3.2-2 に自走式コンバインの運転型式別出願件数比率を示す。乗用型は、普通型コンバインのすべて、自脱型コンバインでは 90% 近くを占める。

図 1.3.2-2 自走式コンバインの運転型式別出願件数比率



自走式コンバインの走行型式は無限軌道のクローラー式と車輪式に分けられる。図 1.3.2-3 に自走式コンバインの走行型式別出願件数比率を示す。自脱型コンバイン、普通型コンバインともにクローラー式がほとんどを占める。

図 1.3.2-3 自走式コンバインの走行型式別出願件数比率

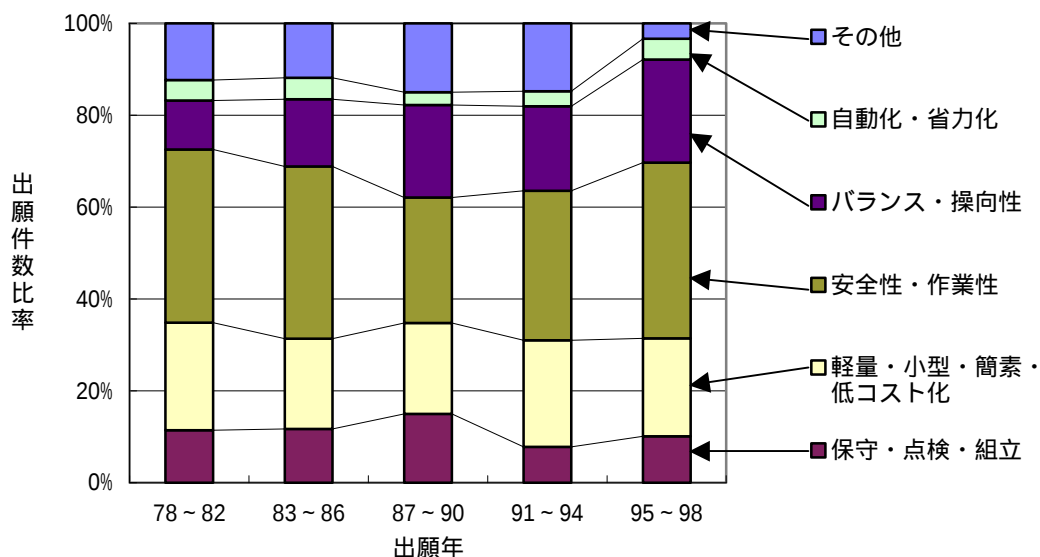


(2) 自走式コンバインの目的・効果

図 1.3.2-4 に自走式コンバインにおける目的・効果別出願件数比率の推移を示す。目的・効果別で出願件数比率が最も多いのは安全性・作業性に関わるもの、比率の増加傾向が最も著しいのはバランス・操向性に関わる出願である。

そこで、バランス・操向性については 1.6.2 項の「複数操作・連動制御」とともに別章にてさらに詳細に分析する。

図 1.3.2-4 自走式コンバインにおける目的・効果別出願件数比率の推移



1.3.3 コンバインの詳細技術

図 1.3.3-1 にコンバインの詳細技術別出願件数比率を示す。最近の出願傾向をみると、エンジン関連装置や警報・表示関係の比率がやや増加している。

図 1.3.3-1 コンバインの詳細技術別出願件数比率の推移

